はしがき

――NIDSパースペクティブの創刊にあたって――

世界は時代を画する変動の真っ只中にいる。しかし、そのゆく先は見えていない。2022年12月に策定された日本の『国家安全保障戦略』は、その冒頭で「グローバリゼーションと相互依存のみによって国際社会の平和と発展は保証されないことが、改めて明らかになった」と言及した。それは、パワーバランスの歴史的変化と地政学的競争の激化によって、国際秩序は「重大な挑戦」に晒されているからだという。こうした危機感は、その内容やベクトルに差はあるものの、多くの国や地域において広がりをみせており、安全や繁栄を所与のものととらえることはますます難しくなっている。われわれは、危機が充満する不確実な世界のなかにいる。

危機が充満する不確実な世界をわれわれはどう生きてゆくのか。その戦略と処方箋を示すことは容易ではない。これまで防衛研究所は、地域や政策領域の定点観測を通じて日本を取り巻く戦略環境の分析と研究を進めてきた。しかし、世界は時代を画する変動のなかにある。地域や政策領域をまたぐとともに、時には時間軸と空間軸を交錯させた研究視角――パースペクティブ――による戦略トレンドの分析と研究が今まで以上に求められている。防衛研究所が研究書籍シリーズ「NIDSパースペクティブ」を創刊する目的はここにある。

シリーズの第1号として本書『大国間競争の新常態』を刊行することになった。不確実な世界に充満する危機は、根本的には国際秩序の在り方をめぐる大国間競争の先鋭化によってもたらされている。国際政治の基本的な要素はパワーであり、冷戦後の世界は米国の圧倒的なパワーが提供する秩序によって支えられてきた。それは米国の卓越する軍事力や経済力によって支えられる国際システムとともに、人権や民主主義、法の支配という「普遍的価値」を要素とする「リベラルな国際秩序」であった。しかし、中国の台頭と米国の相対的衰退というパワーバランスの変化が生じた。パワー、利益、価値、規範そしてそれらを反映する国際秩序の在り方をめぐる米中競争が熾烈さを

増している。競争の論理が世界を覆いつつあるとともに、協力可能と考えられてきた政策領域も支配するようになっている。

『大国間競争の新常態』は、第1部において米中間で展開される戦略的競争の論理と構図、ロシア・ファクターの実相を明らかにしたうえで、第2部において米中を中心とする大国間競争が各国・地域でどのように派生しているのかを描く。もちろん本書は、大国間競争にかかわる政策領域や国・地域を網羅しているわけではない。読者諸兄姉のご批判を賜りたい。

本書の執筆は、増田雅之（編者）、新垣拓、山添博史、庄司智孝、佐竹知彦、栗田真広、田中亮佑が担当した。切通亮、相澤李帆、小熊真也、吉田智聡、本山功は編集作業で刊行プロセスを支えてくれた。本書における記述は、各々の専門から論じたものであり、著者が所属する防衛研究所や防衛省あるいは日本政府の見解を示すものではない。

大国間競争の時代に本書が、国際秩序の在り方や日本を取り巻く戦略環境についての議論に少しでも寄与できるのであれば、執筆・編集チーム一同、望外の喜びである。

2023年（令和5年）3月

防衛研究所理論研究部政治・法制研究室長
増田　雅之